

3 盛岡市立病院第3次経営改善計画の取組についての評価（案）について

第3次経営改善計画の三年目に当たる平成29年度は、患者数は計画値よりも入院で108人上回ったものの、外来では8,723人下回りました。

外来は患者数が計画に届かなかったものの、入院・外来とも診療単価の上昇により、入院収益は3,418千円、外来収益は10,304千円計画値より上回りました。医業外収益は、一般会計からの繰入金で計画を下回ったため、64,143千円下回り、収益合計は4,118,567千円となり、計画値よりも108,566千円下回りました。

費用については、給与費、材料費及び経費が計画値を上回ったことから、医業費用は156,803千円上回り、医業外費用は計画値よりも19,451千円下回ったものの、費用合計は4,134,957千円となり、計画値よりも143,619千円上回りました。

この結果、計画では235,795千円の純利益を見込んでいましたが、決算としては16,391千円の純損失を計上しました。

また、各部門が設定した収益以外に関するアクションプランについては、45項目に取組み、目標達成率80%以上となったものが41項目で91.2%を占め、昨年度より3項目、2.8ポイント増加しました。

以上のことから、平成29年度は、目標とする単年度収支均衡を達成することができませんでしたが、常勤医の増員などにより経常収支では4,272千円の黒字を計上することができました。また、消化器・栄養センターを開設し、消化器内科・外科の連携強化を図るなど、市民の医療ニーズに積極的に応えており、経営改善に向けての取組は一定の成果をあげているものと評価します。

今後においては、地域の医療需要等を踏まえ、民間医療機関では担うことができない急性期医療や、精神及び感染症医療等の政策医療を提供するとともに、地域包括ケア病棟を活用した地域包括ケアシステムへの貢献、そして、岩手医科大学附属病院の矢巾移転後においても、盛岡保健医療圏域での救急医療体制が維持できるよう、地域医療の基幹的な役割を果たされたい。

結びに、平成30年度は第3次経営改善計画の最終年度であり、まずは目標としている単年度収支均衡を達成できるよう努められ、市立病院の基本理念である「優しさといたわりがあり、信頼され優れた医療を提供し、開かれた地域医療のための病院」を実現するため、地域に密着した病院として、健全な経営が行なわれるよう、より一層の努力を望みます。

平成30年11月7日

盛岡市立病院経営評価委員会